【アメリカ産クルミ】

カリフォルニア産クルミ収穫量

2018年産　：676,000st
2019年度　：650,730st
2020年産　：785,000st
2021年度　：725,000st
2022年度　：747,840st

- 2022年産相場については当社2021年産の繰入在庫が過去最大であることや、出荷量が大きく落ち込んでいることにより大きく下落しました。しかし年明け以降、現地相場は出荷も回復してきていることに加え、3月にアメリカ農務省がアメリカ国内向けに9,000万ドル分の剥実を買い上げる事を発表した情報を受け、一部パッカーで値上げの動きが出てきています。一方で冷蔵設備を持たない現地パッカーについては早期に在庫を販売すべく、価格を据え置く動きもあり、現地相場についてはパッカーによって差が生じている状況となっています。作付状況については現地カルフォルニア州では2月下旬から3月上旬にかけて降雪や暴風雨の被害が発生し一部作物に被害が出ましたが、クルミについては開花前という事もあり、大きな影響はないとのことです。

【田作り（カタクチイワシ）】

- カタクチイワシ漁に関しては未だ各産地漁は始まっておりません。　現在のシラス漁は水揚げ量が大きく減少しており、相場も前年比200%を有に超える状況となっています。　例年ですと春先のシラス漁が順調に行われ、6月以降カタクチイワシ漁へ移行されますが、現在のシラス漁の状況から鑑みて本年は非常に厳しい状況になることが予測されています。
- 近年の海水温上昇や水質の変化、潮目(黒潮)の大蛇行と海中の栄養不足による魚の生育不足といった影響が昨年以上に顕著に出ております。また漁師は魚がいなければ漁に出ないことを徹底しており、産地加工屋も頭を抱えています。水揚げ量などの漁情報と並行して加工業者の動向にも今後注視していかなければなりません。

Copyright (c) 2023 Kanehatsu Food Co., Ltd. All Rights Reserved.

【北海道産黒豆】

- 2022年産北海道産黒大豆については作付面積が2,583haの実績となり5年ぶりに3,000haを下まわった。また品位も悪く煮豆にできる原料は極めて少なく3年産を買足す状況になった。
- 弊社の仕入価格としては、26年産100に対し、27年産約115、28年産約150と大きく上昇し、29年産30年産は約155とさらに上昇しましたが元年産は115、２年産120、3年産115と3年連続で価格がほぼ安定しています。

	作付面積(ha.)	反収(俵/10a.)	生産量(俵)	繰越(俵)
2018年産	3,602	3.1	109,000	43,000
2019年産	3,905	3.5	134,700	69,300
2020年産	3,224	3.9	111,500	81,100
2021年産	3,087	3.9	115,200	67,400
2022年度	2,583	3.9	96,000	89,000

Copyright (c) 2023 Kanehatsu Food Co., Ltd. All Rights Reserved.

【丹波・丹波産黒豆】

- 令和4年産丹波黒大豆は、作付面積においては兵庫県、滋賀県が若干増加したことにより2,500haと令和3年より6%ほど増えております。（大型農家の作付増加）米の価格下落、日本酒の消費減、による水稲からの転換や大納言からの切り替えによるものと思われます。
- 9月に2度にわたり台風の接近があったものの被害は軽微に澄んだ模様。着莢は順調と思われたが、その後の子実の肥大が進まず、小粒傾向となっています。
- 作付面積は維持及び増加をはっかっているが、生産者が大型農家へと移行している為コンバインなどの機械収穫の比率が上がり、裂皮、割れ豆等の比率が増え、品質、歩留まりに影響が出ているようです。

	市場出回量(t)	作柄	天候
2017年産	2,140	9分作	初期生育は順調に推移したが、10月の長雨・台風で倒伏、早枯れの被害あり。大粒が少ない傾向。
2018年産	910	3～5分作	豪雨・猛暑・3度の台風と記録的大凶作。
2019年産	1,470	6分作	8月前半の猛暑旱魃で開花着莢せず莢数が辺縁の75%しかない。
2020年産	1,750	7分作	8月開花受精期に雨がなく着莢遅れ、収穫期は好天で過乾燥
2021年度	1,950	7.5分作	8月中多雨で落下着莢不良。10月小雨で過乾燥しわ変形粒多発

Copyright (c) 2023 Kanehatsu Food Co., Ltd. All Rights Reserved.

【太巻き・中巻き・小巻】（中国加工）

中国国内において昨年同様食用として需要が増加しております。コロナ渦で中国国内の消費が伸びた健康食品も順調に動いているようです。中国の主要産地は山東省、福建省、大連となりますが、一昨年の山東省で赤潮被害により相場が引き上げられました。2023年4月より新物料スタートし安定した品質と数量を期待しており大方の相場の読みは大幅下げでしたが収穫終了時期が例年より早く終わり数量的には満足した数量とはなっていないようです。

また中芯に使用する鰊については輸入品を使用しておりますが、昨年は輸入の問題で市場の鰊原料が品薄となり価格高騰しておりました。今年度については大きく回復することがなく昨年同様の価格となっているのが現状です。

さけについては日本のものを使用しておりますが、漁獲数は増えたものの魚体については小さく、価格としては昨年とほぼ同じとなっております。

干瓢においては労働力減少で栽培面積少なくなっています。3年程度前より中国国内での餅巾着でのコンビニ販売が堅調に推移し消費自体は増加傾向です。そのため国内向けおでん用巾着製品に干瓢大量使用で相場は続いて高くなる見込みです。

Copyright (c) 2023 Kanehatsu Food Co., Ltd. All Rights Reserved.

【栗甘露煮　熊本産】

2022年産は2022年9月上旬から中旬にかけて九州に接近した台風11号、14号の影響が懸念されましたが台風による影響は限定的で熊本県産栗としては前年比10～20%減といった収穫量でした。

また収穫前の段階で国産栗が品薄状態になっていたこともあり、加工メーカーや菓子メーカーの引き合いが非常に強く、市場価格は過去に類を見ないほど高値で推移しました。

2023年については前年同様品薄状態となっており、生育についてはこれからイガの実付が始まりますが例年同様今後の天候(長雨、台風など)にも左右される状況です。

【栗甘露煮　韓国産】

2022年産は韓国国内の過疎化高齢化、新型コロナ禍での外出制限等で肥培管理が十分に行なえず、老朽化した栗木の抵抗力が低下し、開花時期の低温による受粉障害や強風による果軸へのダメージが散見され、大粒傾向となり、中・小粒栗は前年比50%減と大減産となりました。原料減産による原料価格の高騰、人件費、燃料費等の諸経費の上昇、為替変動による円安状況も相まって、甘露煮価格は大きく高騰しました。2023年生育についてはこれからイガの実付が始まりますが例年同様今後の天候(長雨、台風など)にも左右される状況です。

【栗甘露煮　中国産】

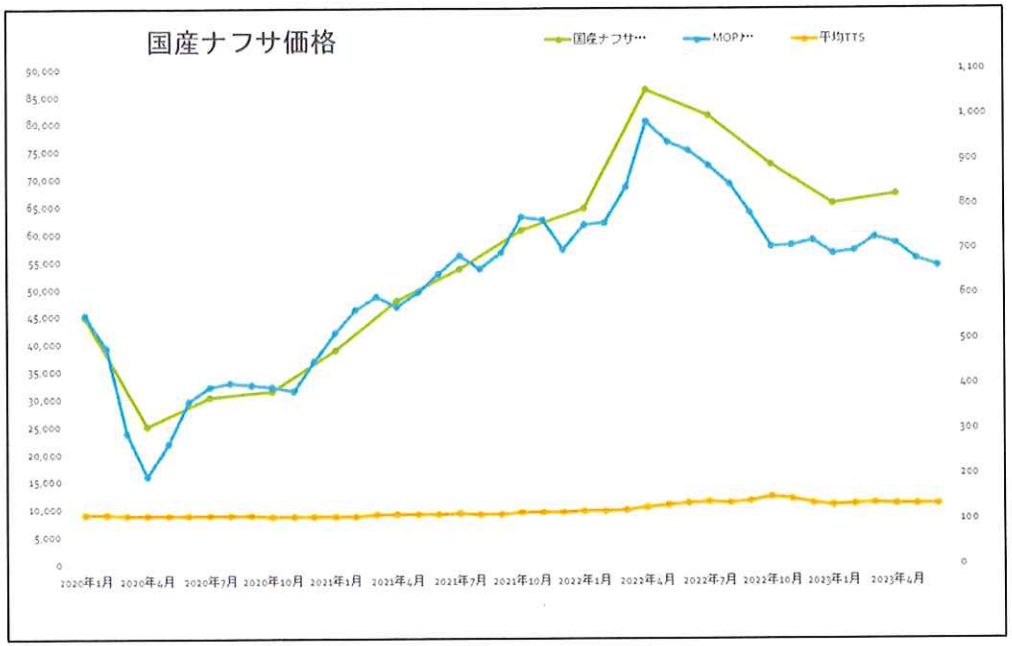
2022年産中国産栗は主要産地である中国丹東エリアは春先の肥培管理が十分に満足にされず樹勢に悪影響を及ぼし、また開花時期には連日雨に降られ十分に受粉が出来ず、8～9月は夜間低温に見舞われました。　その結果作柄は前年比50%減の大減産となり、それに加え為替変動、資材価格の上昇、皮剥き工賃の上昇も相まって甘露煮価格は大幅に上昇となりました。2023年生育についてはこれからイガの実付が始まりますが例年同様今後の天候(長雨、台風など)にも左右される状況です。

Copyright (c) 2023 Kanehatsu Food Co., Ltd. All Rights Reserved.

【包装資材全般】

- 原油及びナフサ推移（フィムル・容器）

ナフサ価格は2022年度80,000円/KLを越えていましたが2023年4月時点では67,000円/KL(速報値)で推移しており、下げ基調となっています。現在各包材メーカーからナフサ価格由来での価格改定の話はございませんが高騰している運賃・エネルギーコストなどのユーティリティコストを吸収出来ていない中で2023年9月以降に5%前後の価格改定を行うとの情報も一部にございます。



- 段ボール

原油高によりエネルギーコスト、運賃などの上昇により段ボール原紙メーカーが2022年2月より10円/kgの値上げを発表しました。これに合わせて段ボール製造メーカーも価格改定を発表。

価格にして10～15%ほどの上昇率となっています。

Copyright (c) 2023 Kanehatsu Food Co., Ltd. All Rights Reserved.